

(2) 区のまちづくり目標

- 区のまちづくり目標については、「区のまちづくり目標総括シート」と「事業一覧」によってまとめている。

- ・ 「区のまちづくり目標総括シート」では、目標の実現に向けた「現状と課題」、「今後の取組みの方向性」をまとめている。
- ・ 7区で共通する課題など全市的課題については、51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

- * 事業の進捗状況の欄は、原則として、指標（「活動の指標」又は「成果の指標」）の達成率（指標を設定していない場合は、代わりに「事業の進捗状況に関する補足」の欄に説明を記載。）を基に、次のA～Dを記載している。

「A」・・・100%以上 「B」・・・75%以上 100%未満
「C」・・・50%以上 75%未満 「D」・・・50%未満

- * 平成27年度を「H27n」、平成27年を「H27」と表記している。

- * 平成26年事業費は、見込額を記載している。

区のまちづくり目標総括シート

東区	歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしなまちづくりをめざして～
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	東区	40,553	(15.2%)	192,002	(71.9%)	34,448	(12.9%)	269,307
H17		38,850	(14.3%)	190,269	(70.2%)	42,065	(15.5%)	274,481
H22		41,272	(14.3%)	197,419	(68.4%)	50,090	(17.3%)	292,199
H26		42,862	(14.3%)	196,698	(65.7%)	59,789	(20.0%)	302,749
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	東区	6,124	(5.4%)	46,878	(41.0%)	114,366	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		8,125	(6.9%)	47,262	(40.1%)	117,887		
		10,653	(8.0%)	56,811	(42.7%)	133,024		
H22		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		

●安全で安心して暮らせるまち

- ・H21の豪雨災害にあった校区に配備している地域土嚢（約1万袋）について、一部で劣化が見られ整備が必要となっている。
- ・H24nに策定された「災害時要援護者避難支援対策に関する取組方針」に基づき、現在2校区と覚書を締結した。（従来の「災害時要援護者情報提供同意者名簿」に関する覚書の締結：11校区）
- ・土砂災害警戒区域の中で、特に人家が多く災害リスクの高い校区については、重点的に避難体制を構築する必要がある。
- ・東区内でのH26の交通事故発生件数は、2,015件（前年比107件の減）、飲酒運転事故が8件（前年同）発生しており、さらなる取組みが求められる。
- ・セアカゴケグモの発見報告は、定期的な調査・駆除によりH25は673件・18,368匹、H26は598件・9,054匹と前年より大幅に減少したものの、発見校区は2校区増えて29校区中24校区に広がっているため、今後も定期的に継続した調査・駆除が求められる。

●子どもが健やかに育つまち

- ・東区の0～4歳の転出・転入者は、7区で最多である（H22国調：転出者1,487人、転入者1,514人）。また、0～4歳の外国人登録人口も480人（H26.9末住民基本台帳登録人口）で全市の48.4%を占めており、区の特性を踏まえた子育て情報の提供や子育て支援者のネットワークづくりを進める必要がある。
- ・幼児期の朝食摂食率を高め、基礎的な食習慣の確立を図るために「早寝早起き朝ごはん」事業を食生活改善推進員協議会と連携して実施しているが、事業の拡大・食育の推進にむけて活動校区（H26n：21校区）を全校区に広げる必要がある。

●人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

- ・地域包括ケアシステムの推進のため、医療と介護の連携強化モデル事業では、職種を超えた医療と介護などの専門職で、在宅医療を推進するための課題の抽出や今後の取組みを確認した。また、高齢者地域支援モデル事業を高齡化率等地域の特性の異なる4校区1自治会で実施したが、引き続き全校区で事業推進に取り組む必要がある。

●新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

- ・香椎駅周辺における土地地区画整理事業は、進捗率約67.8%(H27.3末、事業費ベース)と概ね計画どおりに進んでいるが、その進捗に伴い、新たな店舗の開店や商店街が再生されるまでの間、まちの賑わいを維持していく必要がある。
- ・アイランドシティ整備事業は、埋め立て竣功率約89.9%、居住人口約6,200人(H27.3末)とH39nの土地分譲終了に向けて事業を推進している。官民共助による先進的モデル都市づくりを進めるとともに、アイランドシティのまちづくり、みなとづくりについて、積極的に情報発信を行っていく必要がある。

●歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

- ・志賀島(金印)という日本唯一の歴史・文化資源、海の中道や立花山、三日月山、多々良川などの豊かな自然を生かした地域活性化やまちづくりを進める必要がある。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●安全で安心して暮らせるまち

- ・備蓄している約1万袋の土嚢を、H26nに引き続き計画的に交換していく(毎年約2,000袋)。
- ・災害時要援護者避難支援の取組みを推進するため、各校区に積極的に説明を行っていく。
- ・土砂災害に備えた地域の避難体制を構築するため、フィールドワーク、土砂災害ハザードマップを使用した避難訓練などを実施するとともに、校区内連絡体制の構築を図る。
- ・H27における交通事故発生件数の目標を1,970件以下とし、交通安全運動の推進を図る。
- ・セアカゴケグモの定期的な調査や駆除の徹底を図る。

●子どもが健やかに育つまち

- ・子育てに不安を持つ保護者を支援するプログラムとして、「親子の絆づくりプログラム(BP)」「ノーバディーズパーフェクト(NP)」「コモンセンスペアレンティング(CSP)」を活用した子育て教室を実施する。
- ・地域や子育て支援団体等からなる「地域子育て支援会議」をさらに充実させ、地域の中でネットワークづくりや地域ボランティアの育成などを進める。
- ・食育の推進のため、「早寝早起き朝ごはん」事業の周知活動を自治協議会・衛生連合会・公民館等の関係団体や保育園・幼稚園・育児サークルなどに年間を通して様々な機会に実施する。

●人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

- ・在宅医療、介護等の連携を進めるために、スキルアップを目指した研修会・症例検討会等の事業を関係団体と協働で実施する。また、地域ケア会議を圏域ごとに開催し、地域課題の抽出を校区毎、圏域毎に行っていく。
- ・高齢者地域支援モデル事業を実施した4校区1自治会については引き続き取組みを推進するとともに、全校区で地域包括ケアシステムの推進に取り組む。

●新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

- ・「香椎まちなか美術館」や「香椎灯明まつり」など、地域、NPO、企業、行政が協力し、区内の大学の専門性や学生のマンパワーを活用して、香椎駅周辺におけるにぎわいづくり事業を定期的実施する。
- ・公・民・学で先進的モデル都市づくりを進めるとともに、アイランドシティのまちづくり、みなとづくりについて、積極的に情報発信を行っていく。

●歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

- ・東区の自然の魅力をまとめたリーフレットの作成を検討するなど、東区の魅力発信の取組みをさらに強化。

事業一覧

【東区】歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあしんなまちづくりをめざして～
--

地域防災・防犯対策事業		所管課	東区総務部総務課		26年度事業費	4,637	千円
					27年度事業費	4,379	千円
対象	1. 安全安心マップ 東区内29校区全て 2. 土のう配備の適正管理 3校区(松島, 筥松, 多々良)	目的	1. 犯罪等のない安全で住みやすい校区にする。 2. 水害による被害をできるだけ最小限に留める。				
前年度実施内容	1. 安全安心マップ (1) 29校区の内、3校区(若宮校区, 千早校区, 東箱崎校区)で安全安心マップの更新を実施 (2) 防災・防犯・交通安全について、各校区の特性に応じた注意箇所等を表記し、マップの更新を実施 2. 土のう配備の適正管理 筥松校区の土のう調査を実施し、劣化している土のうを更新するとともに、設置個所の確認を行い、土のう配置マップを作成						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	安全安心マップ作成校区件数(新規・更新含む)	3	3	100%	A		
成果の指標	3校区の水害による被害発生件数	0	0	0%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
地域の子育てネットワークづくり		所管課	東区保健福祉センター地域保健福祉課		26年度事業費	1,030	千円
					27年度事業費	989	千円
対象	乳幼児を持つ子育て中の親子とその地域	目的	東区に住む子育て中の母親が、孤立せず、地域の見守りの中で、つながりを持ちながら安心して育児が出来る。				
前年度実施内容	1. 「地域子育て支援会議」の開催 13校区で22回開催 2. 「子育て情報ガイド」の更新 8校区で更新 11,500部 3. 子育て、子育て支援に関するアンケート実施 〔①4か月児健診時保護者に対して実施909人②自治協, 民生委員など地域役員を含む子育て支援者に対して実施250人〕 4. 育児支援ネットワーク会議で医療機関(産科・小児科)に子育てに関する情報発信と連携						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	地域子育て支援会議の実施	16	22	138%	A		
成果の指標	—	—	—	—			
事業の進捗状況に関する補足	—						
長野県安曇野市との交流事業		所管課	東区総務部企画振興課		26年度事業費	1,391	千円
					27年度事業費	1,750	千円
対象	区内に住む 小学5年生～中学2年生	目的	安曇野市との青少年の相互交流事業を通じて、東区民の連帯意識の高揚を図り、コミュニティづくりの推進に資する。				
前年度実施内容	東区区民フェスティバル実行委員会の事業として、安曇野市との交流事業を実施 ・東区から安曇野市へ青少年10名と引率6名を派遣し、安曇野市の青少年10名と交流した。 ・主な交流として、阿曇族にゆかりが深い穂高神社訪問や、上高地などの山岳地域訪問及び各種体験活動を行った。 ・これらの集団生活・体験を通じて、郷土の歴史や文化、風俗・風習などを学びあいながら、互いの生まれ育ったまちへの郷土愛を培った。						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	青少年受入回数(東区→安曇野市)[回]	1	1	100%	A		
成果の指標	受入事業時の交流人数合計(東区及び安曇野市)[人]	20	20	100%			
事業の進捗状況に関する補足	—						

自治会コミュニティ応援事業 (25年度までは「地域コミュニティ担い手発掘・育成事業」として実施)				所管課	東区総務部地域支援課		26年度事業費	592	千円
							27年度事業費	473	千円
対象	自治会・町内会 各種団体の関係者		目	地域のまちづくりを担う自治協議会等の役員の育成と新たな担い手の発掘ができ、コミュニティ的の活性化・組織強化が図られる状態にする。					
前年度実施内容	1. 外部講師を招いたワークショップの実施（若宮・美和台・八田・香椎下原・多々良）								
	【校区】	【内容】	【回数】	【参加数(延べ)】	【講師】				
	(1) 若 宮	自治会・町内会長および役員対象の研修会	3 回	69人	十時 裕				
	(2) 美和台	自治会・町内会長および役員対象の研修会	2 回	100人	瀧本浩一外				
	(3) 八 田	自治会を対象に、防災の取組・災害時の対応に特化した研修会	3 回	139人	東区あん・あんリーダー会				
	(4) 香椎下原	自治会・町内会の3役を対象とした研修会	3 回	88人	十時 裕				
	(5) 多々良	自治会・町内会の3役を対象とした研修会	3 回	105人	十時 裕				
	2. 自治活動に関する研修会や会計処理などの実務者研修の実施								
	自治協議会対象実務者研修		3 校区	6 4 人					
	自治会・町内会対象実務者研修		3 校区	4 1 人					
		指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標		研修会・ワークショップ回数		20	20	100%	A		
成果の指標		研修会・ワークショップ受講者数		600	606	101%			
事業の進捗状況に関する補足		—							
大学・地域まちづくり事業（コミュニティユース事業）				所管課	東区総務部企画振興課		26年度事業費	824	千円
							27年度事業費	—	千円
対象	九州大学 福岡女子大学 福岡工業大学 九州産業大学 九州造形短期大学 地域		目	大学と自治協をはじめていろいろな地域団体が共働して、大学の専門性や若い力を生かして、地域的の課題解決や魅力づくりに取り組んでいる状態にする。					
前年度実施内容	東区コミュニティユース：事業提案を公募し、大学地域まちづくり委員会の意見を参考に事業を決定								
	・採択事業数：6事業								
	・負担金交付額：737千円（6事業合計）								
	・採択事業：①SMALL URBAN DEVICE ～小さな家を1/1で建てる～（九産大）								
	②唐原川いきものマップづくり（九産大）								
	③小学生のための夏休み造形芸術ワークショップ（造形短大）								
	④世界の貧困を疑似体験する参加型ワークショップ（九大）								
	⑤貝原益軒の思想を通した人間の学びのための心の環境づくり（福工大）								
	⑥おもしろ理科実験教室（福女大）								
		指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標		採用事業数		5	6	120%	A		
成果の指標		大学と地域が共働した事業		50件以上	50件以上	100%			
事業の進捗状況に関する補足		—							
大学・地域まちづくり事業（東部地域三大学連携事業）				所管課	東区総務部企画振興課		26年度事業費	351	千円
							27年度事業費	800	千円
対象	地域住民 郷土の歴史に興味を持つ人 福岡女子大学 九州産業大学 福岡工業大学		目的	東区や地域の魅力・資源を評価し、地域に愛着・誇りを持って活動している。					
前年度実施内容	○東部地域三大学連携推進委員会へ事業を委託								
	○事業概要								
	講座名：シンポジウム「官兵衛がめざしたもの～その生涯から学ぶ～」								
	開催日時：平成26年10月10日（金）13:30～16:40								
	場所：福岡工業大学C棟地下ホール								
	定員等：300名（無料）								
	○プログラム								
	【基調講演】「黒田官兵衛の生涯と人間形成」								
	講師：福岡市美術館運営部長 中山喜一郎								
	【パネルディスカッション】「官兵衛がめざしたもの～その生涯から学ぶ～」								
	パネリスト								
	(株)如水庵 代表取締役社長 森 悦次郎								
	福岡女子大学 国際文理学部教授 月野 文子								
	九州産業大学 芸術学部教授 渡邊 雄二								
	コーディネーター 福岡工業大学 社会環境学部教授 上寺 康司								
	○参加者：245名（当日欠席あり。申込みは300名以上）								
		指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標		公開講座を開催した回数		1	1	100%	A		
成果の指標		—		—	—	—			
事業の進捗状況に関する補足		—							

東区いきいきまちづくり提案事業		所管課	東区総務部企画振興課		26年度事業費	2,372	千円
					27年度事業費	2,978	千円
対象	地域団体 NPO 企業	目	様々な分野で自治協議会だけでなく、多様な主体が連携・共働し、地域・まちづくりに取り組む 的 地域となっている状態にする。				
前年度実施内容	事業提案を公募し、事業評価会での審査を踏まえ補助事業を決定 ・助成団体数：5団体 ・助成金交付額：1,000千円（5団体合計） ・助成事業：Glocal Project（グローバルプロジェクト） 志賀島レンタサイクル事業 ママとベビー＆キッズのハッピースマイルを応援☆地域と親子をつなぐ世代間交流「nicoMammy農園」事業 DREAM ART GARDEN 2014（大学を開放しこどもたちの夢を実現するインスタレーション） 第11回放生会特別企画 ハコフェス 2014						
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	補助金の助成件数		5	5	100%	A	
成果の指標	補助金への申請件数		9	9	100%		
事業の進捗状況に関する補足	－						
芸術と文化の香りあふれるまちづくり推進事業		所管課	東区総務部生涯学習推進課		26年度事業費	2,500	千円
					27年度事業費	2,375	千円
対象	芸術文化活動者及び芸術文化 にある程度の関心がある区民	目	東区の区民、芸術文化団体、企業、学校、行政など多様な主体が、文化芸術活動の活性化に向け 的 て主体的に取り組むを進める。				
前年度実施内容	東区における芸術・文化のシンボリックな新しいイベントとして、区内に居住してあるプロ（セミプロ）の音楽家や文化活動家などによる「東区芸術祭」を2日間開催し、参加した市民に対し、質の高い芸術・文化をより身近に感じる機会を提供した。 ・展示の部（11月29日～30日） 参加者330名 ・フラワーコンサート（11月30日） 参加者280名 ・PR冊子「アートな東区」の発行 5,000部						
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	東区芸術祭の参加者数		500	610	122%	A	
成果の指標	市民センターの年間利用者数		80,000	81,000	101%		
事業の進捗状況に関する補足	－						

区のまちづくり目標総括シート

博多区	お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち・博多区
取組みの方向性	○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	博多区	22,249	(12.3%)	133,247	(73.8%)	24,958	(13.8%)	180,722
H17		22,015	(11.6%)	138,342	(73.1%)	28,898	(15.3%)	195,711
H22		21,276	(10.4%)	148,740	(72.8%)	34,371	(16.8%)	212,527
H26		22,625	(10.4%)	153,929	(70.9%)	40,658	(18.7%)	225,343
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	博多区	6,794	(7.5%)	48,177	(53.1%)	90,776	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		8,286	(8.4%)	54,166	(55.0%)	98,573		
H22		11,512	(9.3%)	79,610	(64.2%)	124,070		
	全市	59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		

●お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

- ・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市（H22 国調：47.7%）にあつて、博多区は7区で最も高い（同：64.2%）。また、博多区は単身高齢者世帯の割合も7区で最も高く（同：9.3%）、高齢化率（65歳以上の高齢者の割合）も上昇傾向にある。
- ・超高齢社会の到来に備え、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるための体制づくりが求められている。
- ・若い世代の転入が多いことや、出生数の増加もあり、育児不安を抱えている母親が増えており、安心して子育てができる体制づくりが求められている。

●安全で安心して暮らせるまち

- ・交通事故発生件数、犯罪認知件数が7区で最多、自転車の放置率が7区で2番目に多く、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。放置自転車対策は、特に、博多駅周辺及び中洲地区において有効な対策が必要。
- *交通事故発生件数：2,923 件（前年度比 155 件減）
 *犯罪認知件数：4,809 件（前年度比 47 件増）
 *自転車の放置率（H26.10）11.8 %（前年同月比 2.3 %減）
- ・災害時要援護者避難支援対策では、避難支援計画の策定など実効性のある支援体制の構築を目指し、2校区でのモデル事業を経て他校区へ拡大中。
- ・生活道路について、損傷が激しい箇所数は7区で最多となっており、博多区に約4割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要。

●歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

- ・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在し、九州新幹線全線開通やJR博多シティ開業により来街者が増加しており、これらの歴史文化資源の魅力発信強化を図っていく必要がある。
- *JR 博多駅乗降者数 97,540 千人（前年比 3,558 千人増）
 - *博多ガイドの会案内人数定点ガイド 8,237 人、派遣ガイド 1,319 人、期間限定ガイド 415 人
 - *博多ライトアップウォーク入場者の推移 H24 78,661 人、H25 91,101 人、H26 124,521 人

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

- ・「いきいきセンターふくおか」の増設（5→8カ所）に伴い、高齢者の相談・支援体制をより一層強化する。
- ・「地域包括ケアシステム」の構築を目指し、医療と介護の連携強化を図るとともに、地域において住民による支え合い助け合いの仕組みづくりを推進する。
- ・相談・支援体制を強化し、児童虐待防止の取組みを進める。また、保育コンシェルジュ等の活用により保育所待機児童の解消を図る。

●安全で安心して暮らせるまち

- ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付（H27n 50 か所整備予定）、歩行空間の整備や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。
- ・各地域で行っている安心安全マップの更新や防犯教室、防犯パトロール研修（H27n 44 回開催予定）をはじめとした地域の防犯活動を支援していく。
- ・災害時要援護者避難支援対策では、H26n に実施したモデル2校区での取組結果をもとに、新たに4校区程度と協議を行う。
- ・博多駅周辺地区や中洲川端駅周辺地区をはじめとした区内の自転車放置禁止区域や、放置常習箇所を対象として、街頭指導員の配置等による啓発活動や即日撤去を効果的且つ効率的に実施する。また、新たな駐輪場の整備を進める。
- ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3 策定）に基づき、施設の点検・修繕を計画的に行うことで、施設の延命化を図るとともに、費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

●歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

- ・博多ライトアップウォークやガイドの会によるまち歩き事業の充実などにより、歴史や伝統文化を活かし、地域・企業・行政が連携して、集客力の向上とまちの活性化をめざす。また、博多千年門や承天寺通りを活用した新たな賑わいづくりに取り組む。
- ・歴史的景観と調和の取れた道路整備などにより、回遊性の向上を図る。

事業一覧

【博多区】お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち・博多区

放置自転車対策事業		所管課	博多区地域整備部 自転車対策・生活環境課	26年度事業費	7,765	千円
				27年度事業費	8,030	千円
対象	自転車利用者	目的	道路及び公園利用者の安全で快適な空間の確保及び都市景観の向上の一つの方策として、自転車利用者の自転車放置を防止する。			
前年度実施内容	※実績は平成27年1月末時点 ・一斉撤去75回。うち、中洲地区25回（昼12回、夜13回） ・中洲地区の夜間（19:30～20:30）の放置自転車の台数が半減（禁止区域指定前：1,977台→924台） ・路面シートの作成・貼付け81箇所。 ・中洲地区の駐輪場案内チラシ配布（①街頭キャンペーン・4～5月・5回：約2,000枚、②放置自転車への貼付け・3～6月：約28,000枚、③博多警察署、保健所の協力を得て、手続きに来訪する中洲地区の事業者に配付：1,100枚、④指定管理者による自転車へのチラシ貼付け） ・放置常習箇所に注意板の取付及びコーンの設置を行い、駐輪場利用を啓発（随時）。 ・中洲川端駅周辺地区や博多駅周辺地区をはじめ、主な放置常習箇所に街頭指導員を配置し、駐輪場案内及び自転車放置禁止区域を周知・啓発（通年）。					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	A
成果の指標	博多区内放置率（％）		13.5%	11.8%	114.4%	
事業の進捗状況に関する補足						

地域防犯推進事業		所管課	博多区総務部総務課	26年度事業費	1,240	千円
				27年度事業費	1,178	千円
対象	地域の防犯組織	目的	犯罪が起きにくい地域づくり、犯罪に遭いにくい方法を習得し、地域住民への反映を図る。			
前年度実施内容	・博多警察署や市民局の協力を得、防犯教室を45回実施した。 ・博多警察署や博多防犯協会の協力を得、博多区地域防犯活動研修会を実施した。 ・地域に対し、街頭犯罪防止に向けた物資支援を20校区実施した。 ・ふっけいメール・生活安全課・警察・地元住民等からの情報網を駆使し、地域への情報提供及び登下校時のパトロールを実施した。 ・4校区で安心安全マップ（地域独自のマップ含む）を更新した。					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	防犯教室等の実施		44	45	102%	A
成果の指標	—		—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足						

博多ライトアップウォークの推進		所管課	博多区総務部企画振興課	26年度事業費	11,000	千円
				27年度事業費	11,000	千円
対象	市民及び観光客	目的	長い歴史や豊かな伝統文化を有する博多部において、更なる魅力の創出と回遊性の向上を図り、集客力向上とまちの活性化を図る。			
前年度実施内容	・大河ドラマで話題となった黒田官兵衛ゆかりの崇福寺などを新たに加えた全12会場でライトアップを実施し、来場者は12万5千人と目標を超え、過去最高の人出となった。 ・九州・山口の旅行会社開催についてPRし、JRの協力により九州主要駅において広報強化を行い、観光客をより多く呼び込むよう努めた。 ・地域に密着したイベントとするため、地域の飲食店の協力を得て来場者へのサービスを実施した。					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	延べ入場者数		100,000	124,521	125%	A
成果の指標	—		—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	平成27年度は第10回目の節目開催となり、今後継続可能な事業スキームを構築する必要がある。					

地域密着型の集客・まちづくり		所管課	博多区総務部企画振興課	26年度事業費	6,795	千円
				27年度事業費	5,951	千円
対象	市民及び観光客	目的	「来街者と地域住民の両者が潤い元気なまちづくり」を理念に、博多部の企業や地域住民と連携し、地域的振興や地域活性化を図る。			
前年度実施内容	・博多の魅力発信会議 地域住民・企業・行政が一体的に取り組んでいくため、定期的に会議を開催するとともに、秋に行われるイベントの広報キャンペーン「博多秋博」などを実施。 ・博多遊学プロジェクト 賑わいづくりや回遊性向上のため、秋博スタンプラリー、寺社コンサートなど具体的なイベントを地域、企業、行政が連携して実施。 ・博多みらいネットワーク 地域住民等とまちづくりを考えるフォーラムや博多の新たな魅力を発見するためのフォトコンテストなどを実施。					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	「博多の魅力」HPアクセス数（月間PV）		60,000	162,109	270%	A
成果の指標	—		—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	平成27年度から、まちづくり負担金の集約を図り、博多の魅力発信会議の機能を強化する。					

おもてなしの人材活用事業		所管課	博多区総務部企画振興課	26年度事業費		2,159	千円
				27年度事業費		1,475	千円
対象	観光客	目 的 ガイドや地域の人々がおもてなしの心で迎えることによって、長い歴史や豊かな伝統文化を有する博多的魅力を発信するとともに、地域密着型の活動を行い、地域振興や地域活性化を図る。					
前年度実施内容	・ 定点ガイド（288日 8,237人） 東長寺境内において年間を通じてガイドを実施。 ・ 派遣ガイド（75回 1,319人） まち歩きコースを設定し、参加者の申し込みを受けガイドを実施。 ・ 期間限定ガイド（24日間 415人） 春や秋に地域の飲食店等と連携した期間限定まち歩きコースを設定し、市政だより等で参加者を募集しガイドを実施。						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	ガイド案内者数		10,000	9,971	100%	A	
成果の指標	－		－	－	－		
事業の進捗状況に関する補足	－						

区のまちづくり目標総括シート

中央区	人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」 ～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～
取組みの方向性	○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	中央区	16,380	(10.9%)	115,013	(76.2%)	19,478	(12.9%)	151,602
H17		17,043	(10.5%)	122,962	(75.4%)	22,974	(14.1%)	167,100
H22		17,562	(10.1%)	127,849	(73.8%)	27,724	(16.0%)	178,429
H26		18,971	(10.3%)	132,128	(71.7%)	33,070	(18.0%)	189,430
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H12	中央区	5,683	(6.9%)	47,521	(57.6%)	82,522		
H17		6,848	(7.4%)	54,284	(59.0%)	91,929		
H22		9,473	(8.9%)	67,499	(63.2%)	106,825		
H26		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		
	全市							

●自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

- ・福岡市における入込観光客数は、H21(1,614万人)からH25(1,782万人)の5年間で約170万人増加しているが、そのうち約69%は日帰り客であるため、都心部の魅力を生かした回遊性の向上を図る必要がある。
- ・H26nは大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送もあったことも追い風となり、歴史の魅力を生かしたにぎわいが醸成されたが、一過性にならないように切り口を工夫するなど、地域における歴史・文化資源を有効活用していく必要がある。

※H26.6 福岡城跡整備基本計画策定、セントラルパーク構想策定

●思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

- ・住民自治意識の希薄化や、役員の担い手不足などにより、主体的な地域づくりに課題がある。
- ・共同住宅居住世帯の割合が約90%と高く、転出入者も多いため、コミュニティの希薄化が進み、世帯の孤立化が懸念される。
- ・区の高齢化率は約18.0%（H26.10）と上昇傾向にあり、高齢者単独世帯も8.9%（全市平均8.5%）と市内で高い水準にあるため、健康維持や日常からの支援体制の確立が必要。
- ・妊娠中・出産直後・未就園児のいる世帯の転入者が多く、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要。

●誰もが安心して暮らせるまち

- ・各校区・地区においては防災意識の啓発に取り組んでいるが、日頃からの備えや防災意識の醸成が十分ではない状況にある。また、災害情報の伝達手段を確立することが必要。
- ・H26における中央区の街頭犯罪件数は、減少傾向にあるものの1,974件(全市平均1,869件)と高い水準となっているため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動を促進し、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要。
- ・陥没等による道路の痛みに関する補修件数は、年間約2,000件(H26)に上るため、誰もが安心して利用できる道路や歩行空間の整備推進が必要。
- ・中央区管内における放置自転車は減少傾向にあるものの、天神を中心に都市部では横ばい状態であり、夕方から夜間にかけて放置自転車が増加傾向にある。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

- ・国家戦略特区の指定を踏まえ、民間活力を生かした「にぎわい」拠点や回遊軸づくりを推進。
- ・エリアマネジメント団体である「We Love 天神協議会」との共働による、にぎわいと憩いの創出。
- ・福岡城跡や舞鶴公園の魅力を観光資源として活用し、福岡城周辺エリアの活性化を推進。

●思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

- ・地域課題の解決や公民館新規利用者を増やすため、公民館とNPO等が共働で実施する事業を支援するとともに、地域における新たな担い手の開拓を推進。
- ・住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進。
- ・アラ還世代（55～69 歳）や若い世代の健康に対する啓発活動の推進。

●誰もが安心して暮らせるまち

- ・校区の防災活動をサポートすることで、地域の自主防災力の向上を図るとともに、土砂災害や道路冠水状況を速やかに把握し、関係する地域への連絡体制の確立を図る。
- ・各校区・地区住民、企業、区役所、警察が連携し、各校区・地区において提起される問題や課題の解決に向けた取り組みを実施し、犯罪のない環境づくりを推進。
- ・歩道のフラット化などユニバーサルデザインに基づいた整備を行うとともに、通学路や自動車の通りの多い危険箇所に対し、重点的に歩道・歩行空間等の改良を推進。
- ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策の強化や自転車駐輪場を整備し、人と自転車が共生できるまちづくりを推進。

事業一覧

【中央区】人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

都心部まちめぐり推進事業			所管課	中央区総務部企画振興課	26年度事業費	1,563	千円
					27年度事業費	—	千円
対象	来街者、地域住民	目的	通りの名称付や名称標示、「まち歩きマップ」等の活用により、分かりやすく、案内しやすい、まちの実現的（都心部の回遊性の向上）を図る。				
前年度実施内容	①まち歩きイベントの実施（大名・西中洲地区・計50人） それぞれの地区の魅力を生かしながら、既存のまち歩きマップを生かした夜のまちあるきを実施（全5日間） ②民間イベントと連携したスタンプラリー・中央区PRステージの実施(587人) ③まち歩きマップ（天神地区）の増刷・配布（1,000部）						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	まち歩きイベントの参加者数		250	637	255%	B	
成果の指標	まち歩きイベントでのアンケート（通り名称認知度）（%）		60.0	32.6	54%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業			所管課	中央区総務部企画振興課	26年度事業費	1,777	千円
					27年度事業費	1,557	千円
対象	来街者、地域住民	目的	まちの魅力が向上して来街者が増加し、地域住民の自分の住んでいるまちへの愛着が高まっている状況。				
前年度実施内容	①歴史、文化説明板の設置（委託実施） 草ヶ江校区 3箇所、福岡城周辺校区・地区 3箇所 ②「まちの魅力再発見講座」を実施（委託実施） 「休日のタイムトラベラー」…【テーマ】黒田官兵衛、福岡城、鴻臚館、蒙古襲来、天神の発展【内容】歴史講座＋まちあるきワークショップ等 「歴女サミット」…【内容】「黒田官兵衛」「歴史の楽しみ方」にまつわるゲスト講演、ゲスト演舞、透視リーディング「官兵衛との対話」 ③福岡城さくらまつり、おおほりまつりのPRのために、ポスター、リーフレットを作成・配布（ポスター200部、リーフレット4000部）						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	講座実施地区		12	14	117%	A	
成果の指標	講座アンケート（満足度%）		90.0	94.0	104%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
地域コミュニティ活動活性化支援事業			所管課	中央区総務部地域支援課	26年度事業費	4,200	千円
					27年度事業費	3,994	千円
対象	14校区の自治協議会 自治会・町内会 地域住民	目的	自治協議会、自治会・町内会、各種団体等に、「地域の様々な問題は、地域の実情に応じたやり方でまず自ら解決に取り組み、それが不可能な場合に行政が支援又は対応する」という意識が浸透することを目的とする。				
前年度実施内容	①自治会・町内会長交流会（地域デビュー応援事業の事例発表と検討会2/27） ②キラリ校区支援事業（地域課題解決の意欲がある校区を対象にワークショップ等の開催を支援） ③出前講座（校区が実施する自治会・町内会長研修に校区担当職員が出向いて支援、3校区・計9回） ④広報力充実支援（校区HPやブログの開設及び運営を支援、ブログ開設支援：南当仁・高宮・簀子） ⑤安全安心マップ（多くの住民の参加を得てDIGや校区の安全点検等を実施しマップを作成、舞鶴・高宮） ⑥公民館じょいんとプロジェクト（公民館とNPOの共働促進事業：大名・簀子・舞鶴・平尾・小笹・笹丘・草ヶ江）						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	安全安心まちづくりマップ作成校区数		5	5	100%	C	
成果の指標	校区主催の会長研修・交流会が定着している校区数		5	3	60%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
乳幼児子育て安心事業			所管課	中央区保健福祉センター健康課・地域保健福祉課	26年度事業費	2,296	千円
					27年度事業費	2,478	千円
対象	乳幼児とその保護者	目的	こどもの発育・発達等に不安を持つ母親が気軽に相談できる場を提供し、安心して子育てができるようにする。				
前年度実施内容	①母子何でも相談：1回／月実施。助産師による相談を実施し、延べ649組が参加 ②この指と一まれ教室：親子教室1回／月、個別相談2回／年実施。延べ83組の親子が参加 ③子育て安心セミナー：生後2～3か月の第一子とその母を対象に月に1回開設。産後間もない時期の不安の解消を目的に、育児講話、母親同士の交流、個別相談を実施。 ④子育て安心セミナーフォロー講座：25年度参加者のうち、26年1月～3月生まれの児とその母に案内はがき。セミナー参加者は育児不安が高い母親が5割近くを占めるため、その後の不安感や育児状況に対するフォローを目的に試行的に実施。今回の結果を次年度計画に生かすもの。						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	子育て安心セミナー参加者（組）		240	264	110%	B	
成果の指標	3歳児健診時子育てが楽しいと思う保護者の割合（%）		80.0	78.5	98%		
事業の進捗状況に関する補足	—						

アラ還世代のための還活大学			所管課	中央区保健福祉センター地域保健福祉課	26年度事業費	1,771	千円
					27年度事業費	1,532	千円
対象	中央区に居住及び中央区に勤務する55歳～69歳の男女	目的	①退職後や子育て後も、年1回健診を受け、自身の健康管理ができること。また、その時期特有の疾患について理解し、自ら予防策をとることができる。 ②地域の公民館に出向いたり、地域活動に参加したりすることで、居住する地域につながりをもつことができる。				
前年度実施内容	①講座の開催；4回シリーズ×2コース、単発講演会1回 ②教室08会の開催；7回 ③教室卒業生による自主活動支援；5回 ④シニアのための情報冊子の配布（平成25年度作成シニアのための知恵袋スマートシニアブック） ⑤教室継続参加意欲向上を目指したグッズの活用（スマートシニアバッジ、学生証、卒業証書など） ⑥アラ還世代の還活応援スタンプラリーの実施；健康づくり、生きがいくづくり、つながりづくりのきっかけづくりを応援するシートの作成と配布						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	教室受講者数（人）		450	427	95%	B	
成果の指標	講座参加者のうち、年1回検診を受けた方の割合（％）		80.0	81.0	101%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
人と自転車が共生できるまちづくり事業			所管課	中央区地域整備部道路適正利用推進課	26年度事業費	9,117	千円
					27年度事業費	9,287	千円
対象	自転車利用者	目的	道路利用者の安全で快適な空間の確保及び都市景観の向上の一つの方策として、自転車利用者の自転車放置を防止する。				
前年度実施内容	①モラルマナー啓発：街頭指導員述べ約14,000人 ②放置自転車の撤去：18,906台						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	有料駐輪場の利用者数(1日平均利用者数)		—	6,096	—	A	
成果の指標	放置率(％)		17.0	12.7	134%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
食と美容の安全・安心プロモーション事業			所管課	中央区保健福祉センター衛生課	26年度事業費	1,703	千円
					27年度事業費	1,577	千円
対象	1 事業者 2 子供の保護者、学生等 3 美容に関心の高い世代	目的	食中毒予防、健康被害防止に関する正しい知識を身につけてもらい、食中毒事件、美容施術による事故の発生を未然に防ぐ。				
前年度実施内容	1 食の安全・安心の推進 ・食肉の生食による食中毒を防止するため、事業者に対し施設監視や講習会等で提供自粛を指導した（講習会71回）。また、市民に対し、街頭キャンペーンでパンフレットを配布する等、生食肉を食べることの危険性を周知した（パンフレット配布数：19,976部）。 ・食のイベントにおける食中毒を防止するため、事業者に対しパンフレットを活用した事前指導及び当日の現地指導を行った（施設監視件数1,829件）。また、地域のバザーにおける食中毒を防止するため、パンフレットを活用して窓口指導や講習会を行った（窓口指導件数：88件）。 2 美容の安全・安心の推進 ・まつ毛エクステンション等美容施術による健康被害防止に関するパンフレットを配布した（パンフレット配布数：6,000部）。 ・はさみやコーム等切皮器具のATP値を調査し衛生指導を行った。						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	講習会のべ開催数		105	92	88%	B	
成果の指標	食中毒事件数及び食中毒疑い調査件数(生食肉関係)		0	21	—		
事業の進捗状況に関する補足	—						
中央区地域防犯対策事業			所管課	中央区総務部総務課	26年度事業費	1,906	千円
					27年度事業費	1,810	千円
対象	中央区民	目的	地域の防犯活動を支援することで、住民の防犯意識の高揚を図るとともに、自主防犯活動が活発となり地域の犯罪抑止力が強化される。				
前年度実施内容	①NCC活動による各校区部会が実施する防犯活動に参加 ②児童の登校時間帯における見守り活動を実施 ③防犯活動に必要な物資の支援（反射電柱幕、LEDライト、自転車用ワイヤーロック等） ④中央警察署主催の防犯キャンペーンに随時参加 ⑤安全安心まちづくりニュースを毎月各校区へ配布 ⑥落書き消しボランティア支援（大名、赤坂、当仁校区、天神3丁目の落書きけし活動に対し溶剤等を提供） ⑦防犯カメラ設置補助金を活用した支援の促進 ・設置団体；高砂1丁目1区(2台)、大手門2丁目4区(5台)、今泉2丁目2区(2台)、天神5丁目2区(5台)、地行1丁目2区(8台)						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	防犯活動に対する支援を行う校区数		14	14	100%	A	
成果の指標	中央区内で発生する街頭犯罪認知件数（万引きを除く）		2,200	1,974	111%		
事業の進捗状況に関する補足	—						

区のまちづくり目標総括シート

南区	いきいき南区 暮らしのまち ～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～
取組みの方向性	○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち ○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち ○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	南区	35,937	(14.8%)	174,163	(71.7%)	32,830	(13.5%)	243,039
H17		34,007	(13.8%)	173,480	(70.6%)	38,204	(15.5%)	246,367
H22		33,528	(13.6%)	167,308	(68.0%)	45,186	(18.4%)	247,096
H26		34,563	(13.7%)	165,417	(65.5%)	52,556	(20.8%)	253,605
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	南区	6,613	(6.3%)	42,016	(40.0%)	104,999	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		7,514	(6.9%)	43,813	(40.3%)	108,734		
		9,892	(8.8%)	46,220	(41.2%)	112,306		
H22		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		
	全市							

●人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち

- ・少子化が進行する中、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。
- ・高齢化率が20%を超える校区が過半となっており、高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう応援する施策がますます重要。

●みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

- ・高齢者のみの世帯の割合が15.7%（H22 国調）と7区中最も高く、災害時の要援護者の支援方法の確立等が課題。
- ・外国人居住者が増加しており、ゴミ出しルールや生活マナー等をわかりやすくサポートするとともに、地域住民との相互理解により、外国人も地域の一員として互いに暮らしやすい環境づくりが必要。

●那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

- ・南区の景観の大きな特色である56か所のため池をはじめ、油山や那珂川などの身近な自然環境を守り育むとともに、健康づくりなどにも活かしていくことが重要。

●大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

- ・区内及び周辺部には7つの特色ある大学・短大が立地しており、その専門的知識や人材などを住民生活の課題解決等に活かす取組みが重要。
- ・西鉄天神大牟田線からも遠い区西南部地域では、道路交通網の強化や公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取組みが求められている。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うしやすいまち

- ・新米ママや若年ママのための親子セミナー、発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など、育児不安を軽減し、孤立化や虐待への移行を予防するとともに、子育て情報の提供や、子どもの正しい生活リズムの普及啓発などに取り組み、みなみっ子の元気な成長を応援。
- ・高齢者の健康づくりや社会参加、認知症等に関する講座開催、地域で高齢者を見守るしくみづくりなどを進め、高齢者が元気で心豊かな人生を送れるよう応援。

●みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

- ・災害時における要援護者をはじめとする住民の安全確保のため、地域と共働で防災・防犯意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組むとともに、ワークショップやセミナーなどを通じて、先進的な地域の取組み事例を紹介し、全体の意識向上につなげる。
- ・外国人と地域住民の共存のため、ワークショップや交流会等により相互理解を深めるきっかけづくりを行う。

●那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

- ・身近な自然やまちの魅力を再発見し、地域への誇りと愛着を深めるためのさまざまな取組みを推進。

●大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

- ・住民を対象とした大学版出前講座や公開講座など、大学と地域をつなぐ事業を推進。
- ・那珂川町との交流事業や、桧原桜を活かしたまちづくり等を推進。
- ・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西南部地域の活性化に向けて検討。

【南区】いきいき南区 暮らしのまち ～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～
--

元気ハツラツみなみっ子応援事業 （Aみなみっこ子育て支援，B子育て情報マップ作成，C子どもの生活リズム向上普及啓発）		所管課	南区保健福祉センター 地域保健福祉課〔A，C〕 子育て支援課〔B〕		26年度事業費	1,684	千円
					27年度事業費	1,294	千円
対象	[A]育児不安を感じやすい若年・新米の母親，発達が気になる子どもの母親 [B，C]乳幼児の保護者全般	目的	[A，B]育児不安が解消して，虐待のリスクが軽減している。安心して楽しく子育てしている。 [C]子どもが正しい生活リズムを身につけて，健やかに成長している。				
前年度実施内容	[A]みなみっこ子育て支援 ・育児不安を感じやすい層に早期にアプローチし支援するため，1歳未満の乳児を持つ若い母親を対象に交流会「プチママ☆あつまれっ！」を，初めて子育てをする生後間もない乳児の母親を対象に「生後1～3ヶ月新米ママのための親子セミナー」を，発達障がいのある子どもと保護者のためのサロン「みなみん」を実施						
	[B]南区子育て情報マップ作成・配布 ・中学校区ごとに作成し，こんにちは赤ちゃん訪問，子どもプラザ，子育て支援課窓口などで配布（区ホームページからダウンロードも可能）						
	[C]子どもの生活リズム向上普及啓発（～H26） ・リーフレットの配布，健康フェアで「啓発コーナー」設置，「南区子ども月間（10～11月）」に街頭キャンペーン実施 等						
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	セミナー，サロンの開催回数〔A〕	18	18	100%	A		
成果の指標	セミナー，サロン終了アンケートにて「満足した」と回答した割合〔A〕	89	94	106%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
いきいきシニア応援事業 （Aアクティブライフのための健康きっかけづくり事業，B食に着目したアクティブエイジング推進事業，C南区耳バリアフリープロジェクト，Dお・も・い・や・リネットワーク事業）		所管課	南区保健福祉センター 地域保健福祉課〔A，D〕 健康課・衛生課〔B〕 総務部企画振興課〔C〕		26年度事業費	1,697	千円
					27年度事業費	1,805	千円
対象	[A]概ね60歳前後の方 [B]元気な高齢者 [C]聞こえが不安な高齢者 [D]支援が必要な高齢者	目的	[A，B，C]高齢者が健康で，生きがいを持って，いきいきと暮らしている。 [D]高齢者が，地域全体で見守られ，住み慣れた地域で安心して生活できる。				
前年度実施内容	[A]アクティブライフのための健康きっかけづくり事業 ・健康づくり（生活習慣病予防・栄養・運動等）と社会参加をテーマに「健康きっかけづくり講座」を実施し，講座の内容をホームページに掲載						
	[B]食に着目したアクティブエイジング推進事業 ・食品事業者（イオン九州）の協力で，店舗内で消費者にレシピの配布や入賞レシピの試食を提供（入賞レシピの応募者も参加） ・レシピを活用した料理教室を香蘭女子短大で実施。 （入賞レシピ応募の学生や地域の高齢者，ヘルスメイトが参加し，料理以外にもコミュニケーションを取りながら交流） ・ロコモ予防の内容でアミカスでサイエンスカフェを実施。（大学講師の講演と実技，手作りおやつを試食をしながら交流）						
	[C]南区耳バリアフリープロジェクト ・九州大学大橋キャンパスと共同で開発したヒアリング・ループの機器貸し出しを実施						
	[D]お・も・い・や・リネットワーク事業（H26～） ・地域全体で自主的に高齢者支援の取り組みを希望する2校区に対して，ワークショップ・研修会を開催 ・うち1校区では町内単位の見守り体制づくりを支援，うち1校区では認知症高齢者を含めた体制づくりを支援						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	講座参加者数〔A〕	25	16	64%	B		
成果の指標	食事をしながらコミュニケーションできる場の数〔B〕	2	2	100%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
南区防災・防犯支援事業		所管課	南区総務部総務課		26年度事業費	3,863	千円
					27年度事業費	3,863	千円
対象	南区の住民	目的	地域と共働し，防災・防犯意識の醸成，組織や従事者の育成，訓練などに取り組むとともに，校区独自の活動を支援し，安全で安心な住みよいまちづくりを進める。				
前年度実施内容	○防犯物品支援（5万円×25校区）						
	○防災セミナーの実施						
	○校区安全安心マップの利用促進 ・安全安心マップの地図データをwebまっぷに反映し，必要な校区が随時マップを編集できるよう，校区へのサポートを実施						
	○災害時要援護者避難支援対策への取組 ・おもしろネットワーク事業との連携 野多目校区 防災講座（2回），防災会議（1回） ・同意者名簿の提供（宮竹校区，野多目校区，大池校区，高木校区）						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	災害時要援護者台帳覚書締結校区数	20	21	105%	A		
成果の指標	覚書締結校区中，避難指示時に要援護者として把握している人の安否確認を実施できた校区数	20	—	—			
事業の進捗状況に関する補足	—						

水辺や緑に親しむまちづくり事業			所管課	南区総務部企画振興課 地域整備部地域整備課		26年度事業費	888	千円
						27年度事業費	1,855	千円
対象	南区の住民 ほか		目的	那珂川やため池などの水辺空間等の自然が、住民にさらに身近で、うるおいとやすらぎを得る場になっている。				
前年度実施内容	・ 南区水辺のカレンダーの作成・配布 ・ おでかけマップの版下作成 ※H27から南区魅力めぐり事業と統合し「まちのよかところ再発見事業」に事業名変更							
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	治水池の整備数（環境整備事業）			3	3	100%	A	
成果の指標	市政に関する意識調査：自然環境の豊かさに満足(南区)			80	80.6	101%		
事業の進捗状況に関する補足	—							
大学と地域の縁むすび事業			所管課	南区総務部企画振興課		26年度事業費	689	千円
						27年度事業費	689	千円
対象	南区の住民 ほか		目的	南区に所在する大学・短大が持つ専門的人材や知的財産を活用して住民のくらしの課題解決に生かす取組みを進めるとともに、学生と地域との交流を促進する。				
前年度実施内容	・ 南区出前講座（大学版）の実施 ・ 南区大学公開講座の開催 ・ 南区大学連絡会議の開催 ・ 南区魅力ある地域づくり懇談会（学生版）の開催 ・ 南区大学情報バンクの運営							
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	出前講座（大学版）の開催数			30	38	127%	A	
成果の指標	市政に関する意識調査：芸術・文化水準に満足(南区)			60	61	102%		
事業の進捗状況に関する補足	—							

区のまちづくり目標総括シート

城南区	豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支えあう、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にするまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	城南区	16,704	(13.3%)	92,827	(73.8%)	16,212	(12.9%)	126,468
H17		16,281	(12.7%)	92,145	(72.0%)	19,483	(15.2%)	128,663
H22		16,495	(12.9%)	88,231	(69.1%)	22,940	(18.0%)	128,659
H26		16,802	(13.0%)	85,380	(66.2%)	26,865	(20.8%)	130,028
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	城南区	3,381	(5.7%)	28,349	(47.9%)	59,194	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		4,132	(6.8%)	28,615	(47.2%)	60,655		
H22		5,275	(8.5%)	29,678	(47.7%)	62,189		
		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		
	全市							

●安全で安心して暮らせるまち

- ・H21.7に発生した集中豪雨、樋井川水系の河川氾濫による浸水被害対策については、対象校区での水害避難ガイドブックの作成、それを契機とした自主防災組織の活性化や、県の樋井川浚渫工事等により整備されてきている。今後は、H22.7に発生した油山の土石流の経験なども踏まえ、地域防災力の強化や災害に強いまちづくりを着実に進めることが必要。
- ・城南区では全市平均と比べても年少人口の割合が低く、少子化が進んでおり、安心して生み育てられる環境づくりが必要。

●地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

- ・城南区では全市平均を上回るスピードで高齢化が進んでおり、独居や認知症などの高齢者問題への取組みとともに、高齢になっても住み慣れたまちで自立した生活を安心して続けられるよう、地域で支え合うシステムづくりが求められている。

●地域と大学が共生するまち

- ・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数は約2万5千人で、区人口の約2割に相当する。大学の高い教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などを地域課題の解決に活かす取組みが求められている。

●自然環境を大切にするまち

- ・区域の南部に位置する油山、区域を貫流する樋井川など、身近にある豊かな自然環境を次世代に継承していくとともに、住みやすい環境づくりに活かすことが必要。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●安全で安心して暮らせるまち

- ・土砂災害対策として、福岡大学と連携し、土石流を知る講演会や危険箇所の調査を行う予定としており、地域の自主防災組織への活動支援や普及啓発など、継続して地域防災力の向上を図る。
- ・月齢に応じた子育て情報やトピックスなどを配信する携帯用メールマガジン「子育てにつこりんメール」において、アンケートによりニーズを把握し、必要な情報を発信するなど、安心して生み育てられる環境づくりを推進。

●地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

- ・認知症になっても安心して暮らせる地域づくりや地域活動を担う人材の育成支援、地域の見守りネットワークの強化などの取組みを推進。
- ・自治協議会などの地域団体と共働して、参加者自身の健診結果を持ち寄り、校区単位の健康課題をテーマとした健康講座をシリーズで開催し、区民の自主的な健康づくりを促進。

●地域と大学が共生するまち

- ・大学・大学生の地域活動への参画を促進するため、地域と大学・大学生との定期的な情報交換や大学生への地域活動情報発信の仕組みづくり、共働事業などを行い、大学を生かしたまちづくりを推進。

●自然環境を大切にするまち

- ・油山の四季折々の魅力や、ハチクマの渡りが観察できる日本有数の観察スポットである片江展望台でのハチクマウォッチングの開催をPRするなど、自然環境を大切にするまちづくりを推進。

事業一覧

【城南区】豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～
--

防災対策事業（避難ガイドブック作成・地域防災リーダー養成・要援護者避難計画支援等）		所管課	城南区総務部総務課		26年度事業費	1,698	千円
					27年度事業費	650	千円
対象	①各校区自主防災組織 ②土砂災害危険地区住民 ③城南区災害対策本部職員	目的	①自主防災組織を中心に自助共助が行えるようになる。 ②土砂災害に対する備え及び自助共助が行えるようになる。 ③災害時に遅滞なく対応できるようになる。				
前年度実施内容	①防災士養成講座 福岡大学と連携し、防災士資格取得のための大学での講義受講料を支援し、平成25年度9月～26年度8月に7人受講。前年度受講1名を加え、26年度計8名防災士資格取得した。合計15名養成し、各校に1名の防災士を確保することができた。 ②水害避難ガイドブック 26年度長尾校区において作成し、樋井川による浸水被害の恐れのある校区への作成が完了した。 ③災害時要援護者支援について、松山1丁目自治会が支援組織をつくり市と覚書を交わした。 ④地域・大学・区の連携として、5月25日の市民総合防災訓練では、福大生と地域住民とが協力しての避難行動訓練、災害対応訓練を実施し、3者の連携を深めた。 ⑤県の土砂災害警戒区域の指定により土砂災害危険地域へのヒアリング等の災害対策。						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	避難ガイドブックを作成	3	3	100%	A		
成果の指標	対象校区への累計配布数	6,500	6,500	100%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
安全安心のまちづくり（校区安全安心マップ改訂・自主防犯パトロール活動支援・安全安心街頭キャンペーン実施等）		所管課	城南区総務部総務課		26年度事業費	1,752	千円
					27年度事業費	1,752	千円
対象	①地域住民 ②城南区防犯推進協議会 ③校区の防犯指導者	目的	地域住民の防犯意識が向上し、それにより地域の防犯力の向上を目指す。 地域防犯活動の活性化。				
前年度実施内容	①城南区防犯推進協議会による防犯活動の推進 ②安全安心マップの改訂（七隈校区、堤地区） ③校区パトロール活動支援 ④高齢者を対象とした防犯啓発 ⑤街頭キャンペーンの実施 ⑥防犯指導者研修 ⑦地域防犯活動支援						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	安全安心マップの改訂校区数	2	2	100%	A		
成果の指標	校区内の危険か所再確認作業校区数	2	2	100%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
城南区子育て応援メルマガ事業		所管課	城南区保健福祉センター健康課		26年度事業費	1,199	千円
					27年度事業費	1,206	千円
対象	・就学前までの子どもをもつ保護者 ・妊娠中の人	目的	子育て中の保護者が、孤立感や不安感を解消し、安心して楽しく子育てできる環境を整える。				
前年度実施内容	月齢に応じた子育て情報を月1回配信するほか、子育てにまつわる幅広い情報を集め配信した。 また、登録者アンケートを実施して情報のニーズを調査し、その結果を区の関係7課で構成するワーキンググループで検証し、配信内容に反映した。 ①配信件数：83件（平均月6.9件） （内訳）月齢に応じた子育て情報：12件（月1回） 臨時号：71件（平均月5.9件） ②登録者数：1,607人（年度中270人増）						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	配信件数	60	83	138%	B		
成果の指標	登録率（%）	33.0	26.4	80%			
事業の進捗状況に関する補足	—						
地域を支える人材発掘・育成支援事業		所管課	城南区総務部地域支援課		26年度事業費	211	千円
					27年度事業費	490	千円
対象	○各校区自治協議会等における地域活動者 ○小中学校PTA活動者 ○大学生（福岡大学、中村学園大学）	目的	○校区自治協議会での地域活動を担う新たな人材が確保される。 ○地域活動者のスキルアップが図れる。				
前年度実施内容	研修会や意見交換会を開催 ○人材発掘事業 ①PTA活動者への地域活動研修（七隈校区） ②大学生への地域活動ガイダンス（全校区対象、七隈校区） ○人材育成事業 ①地域リーダー養成研修（堤地区） ②新任自治会・町内会長研修（全校区対象） ③会計担当者研修（全校区対象、田島、別府、堤、七隈、堤丘校区） ④各公民館で主催事業として開催						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	人材発掘・育成支援事業（研修）実施回数	8	11	138%	A		
成果の指標	地域と大学の交流事業数	50	65	130%			
事業の進捗状況に関する補足	—						

区民の自主的な健康づくりの促進			所管課	城南区保健福祉センター地域保 健福祉課	26年度事業費	247	千円
					27年度事業費	307	千円
対 象	4 0 歳以上の城南区民	目 的	自治協議会との共働により、自主的に健康づくりに取り組む市民を増やす。				
前 年 度 実 施 内 容	○新たな2校区（鳥飼、城南）で実施。 ○自治協議会と校区の健康課題を共有し、健康講座のテーマを決定。 ○参加者自身の健診結果を持ち寄り、自己の健康課題と校区の健康課題を テーマとした健康講座を実施。 ○次年度からの自主的な健康づくり活動を検討。 ○区役所内関係部署、および社会福祉協議会、地域包括支援センターとの意見交換会において、高齢者を中心とした健康課題や健 康づくりの社会資源について情報共有した。						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	健康講座開催校区数			2	2	100%	A
成果の指標	自主的な健康づくり活動を開始する校区数			2	2	100%	
事業の進捗状況 に関する補足	—						
大学のあるまちづくり（大学・大学生と地域の連携交 流推進）				所管課	城南区総務部企画振興課	26年度事業費	874 千円
						27年度事業費	876 千円
対 象	大学・大学生 地域・住民	目 的	・学生と地域がふれあう活気のあるまちをつくる。 ・大学の資源(教育研究機能・施設・人材)の地域への還元促進 ・大学と地域の交流による地域課題の解決				
前 年 度 実 施 内 容	○福岡大学、地域、行政で構成する「地域連携推進協議会」の円滑な運営支援及び、参加メンバーとしての協議会参加 ○中村学園大学と区役所の連携協議会の設立、運営支援 ○大学と地域の情報交流の場づくり ・福岡大学への地域活動情報発信の仕組みづくりを促進の検討 ・中村学園大学サークルリーダー研修での公民館事業案内 ○大学・大学生の地域活動に対する広報 ・市政だより区版で年5回「地域で輝く学生力」を連載 ・区HP、フェイスブックで大学関係の記事を発信						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	地域と大学の交流事業数、及び行政と大学の連携事業数			60	78	130%	A
成果の指標	地域と大学の交流事業数			50	65	130%	
事業の進捗状況 に関する補足	—						

区のまちづくり目標総括シート

早良区	ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち
取り組みの方向性	○お互いが支え合い安心して暮らせるまち ○早良区の特性を生かした魅力あるまち ○地域の魅力を生かしたまち ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部 ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部 ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	早良区	32,337	(15.9%)	145,141	(71.5%)	25,570	(12.6%)	203,656
H17		31,417	(15.0%)	145,996	(69.8%)	31,730	(15.2%)	209,570
H22		31,510	(14.9%)	142,113	(67.4%)	37,234	(17.7%)	211,553
H26		32,554	(15.2%)	138,080	(64.3%)	44,088	(20.5%)	215,390
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	早良区	4,687	(5.8%)	26,881	(33.0%)	81,425	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		6,181	(7.1%)	30,195	(34.9%)	86,621		
		7,467	(8.3%)	32,128	(35.6%)	90,134		
H22		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		

●お互いが支え合い安心して暮らせるまち

- ・核家族化、地域コミュニティの希薄化等の社会状況の変化により、地域において子育て家庭が孤立化している。子育てへの不安感を軽減し、児童虐待、発達障がい等、支援を要する子どもや家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
- ・早良区のH25n 特定健診受診率は25.1%であるが、40歳代は13.8%、50歳代は17.3%と低い。生活習慣病予防の重要な年代である働き世代を対象に、健康づくりの啓発活動を強化する必要がある。
- ・団塊世代の大量退職期の到来を契機に、定年退職後に必要な情報提供を行うとともに、地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより、地域の担い手不足解消等へ繋げていくことが求められている。
- ・福岡市における犯罪認知件数は、H14をピークに減少傾向にあるが、早良区においてはひったくりや自転車盗の街頭犯罪が多い状況にある。地域住民が主体となったワークショップ等の開催は、校区の安全活動を活性化し、街頭犯罪の防止に繋がると期待できるので、継続的な安全活動となるよう、地域住民の意識向上を図るべく、区のサポート体制の構築・啓発活動の強化を図る必要がある。

●早良区の特性を生かした魅力あるまち

- ・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。
- ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりなど、早良区の魅力を生かした地域活性化や認知度の向上に取り組む必要がある。
- ・早良区中南部地域における、区レベルの行政サービスを補完する施設として、地域交流センターの早期整備を図る必要がある。

●地域の魅力を生かしたまち

- ・早良区南部地域は少子高齢化や農林業の後継者不足など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共働で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●お互いが支え合い安心して暮らせるまち

- ・発達が気になる親子支援のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌・子育て情報マップの配布などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに子育てを応援する。
- ・生活習慣病予防の重要な年代である働きざかり世代を対象に、健康づくりへの関心を行動に結びつけるための啓発活動を行う。
- ・シニア世代向けセカンドライフの応援の一環として「シニアのための智恵袋」を活用した地域人材の発掘にかかる事業を行うなど、地域の担い手増加に取り組む。
- ・他の校区での安全活動の実施状況やその活動による成果の事例などについて校区間の意見交換会を開催し、活動の手法や問題点を全校区で共有する。また、それに対する区としてのフォローアップの手法を検討し、校区に還元する。

●早良区の特性を生かした魅力あるまち

- ・室見川水系一斉清掃を継続するとともに、ポイ捨てをさせない環境づくりとして、啓発や防止策の検討を引き続き行う。
- ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。
- ・「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。

●地域の魅力を生かしたまち

- ・早良区南部地域の魅力を生かしたまちづくりを進めるため、「早良みなみ塾」実行委員会を中心に、検討・実施するなど、地域の魅力を生かした取組みを行う。

事業一覧

【早良区】ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち						
さわらっ子育て応援事業（発達が気になる親子支援、子ども虐待防止、子育て情報の充実）			所管課	早良区保健福祉センター子育て支援課・地域保健福祉課	26年度事業費	1,792 千円
					27年度事業費	1,469 千円
対象	早良区内の子育て家庭	目的	子育てに不安や心配があっても、「相談できる人や場所があるから大丈夫」と安心して生み育てることができ、子どもたちが幸せにすくすくと育つ。			
前年度実施内容	①発達が気になる親子支援 子育てサロン「もちもち」の開催 12回 参加人数 119組 298人 「もちもち」ミニ講座の開催 9回 参加人数 112人 子育て講演会の開催 3回 参加人数 84人 ボランティア交流会及び研修会の開催 3回 参加人数 27人 ②こども虐待防止に向けた取組 保育所出前講座（対象者：保育士） 3回 参加人数 44人 小学校・中学校対象児童虐待研修（対象者：教員） 3回 参加人数 58人 全体研修会（対象者：要保護児童支援地域協議会構成員） 1回開催 参加人数 108人 虐待防止啓発ポスター及び卓上啓発のぼりの作成・配布 関係機関及び金融機関等にポスター330枚、卓上のぼり606本配布 ③子育て情報の充実 子育て情報マップの時点修正及び増刷 3地区各1500部 ホームページ関係課会議の開催 2回					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	虐待防止講座開催数		34	36	106%	B
成果の指標	研修受講後に通告義務や連携への意識が高まった割合（％）		100.0	99.0	99%	
事業の進捗状況に関する補足	—					
働きざかりの健康づくり（健康づくり応援団の店事業、サブウェイダイエット事業）			所管課	早良区保健福祉センター健康課	26年度事業費	718 千円
					27年度事業費	168 千円
対象	生活習慣病予防の重要な年代である働きざかり世代（20歳代～50歳代）	目的	健康づくりへの意識・関心を高め、実際の行動に結びつく。 区全体が健康となるまちづくりをめざす。			
前年度実施内容	①健康情報の発信 レシピ等のリーフレット等を作成し、商店街の協力店舗（健康づくり応援団の店）を通じて健康情報を発信。（健康づくり応援団の店への配布作業はヘルスメイトが協力） ②地下鉄駅構内での啓発（交通局SUBWAY DIET事業との連携） 勤労者が利用する地下鉄構内（西新駅・藤崎駅）において、ホームドア広告を設置し、駅から最寄りのサザエさん通りの紹介も含め、通勤ついでに健康づくりを実践する市民を増やすための啓発を実施。 ③イベント等の機会を捉えた健康づくりに関する啓発 関係機関と連携し、健康づくりをテーマとしたイベント等に参加するなどし、区民の健康に対する関心を高めた。					
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	健康づくり応援団の店と連携したレシピ等の配布数		1400	1,500	107%	A
成果の指標	健康づくりに取り組んでいる市民（20～59歳）の割合（％）		—		—	
事業の進捗状況に関する補足	—					
シニアのための智恵袋			所管課	早良区保健福祉センター福祉・介護保険課	26年度事業費	772 千円
					27年度事業費	950 千円
対象	早良区内の今後定年を迎えるシニア世代（概ね50～65歳）	目的	当該世代のセカンドライフへの不安解消、及び社会参加、生きがいづくりの促進			
前年度実施内容	1. 冊子の作成 ◇作成部数 4,000部（H27.2月） ※改訂（4ページ増） ◇配付場所 関係各課窓口・区役所情報コーナー、市情報プラザ等 ※アラカンフェスタでの配布（1000部） 2. シニアのための智恵袋講演会の開催 ◇参加者数 186名（H27.3.1開催） ◇内 容 智恵袋事業の説明 講演会「セカンドライフを生き抜く7つの智恵」（講師：村田裕之氏） ◇開催場所 西南コミュニティーセンター ホール 3. 情報発信 ◇冊子改訂版配布にあわせ「シニアのための智恵袋」ホームページを新設 ◇早良区情報玉手箱（facebook）にて、随時情報発信					
	指標内容		26年度目標	26年度実績		事業の進捗状況
活動の指標	シニアのための応援イベント・講座の参加者数		300	186	62.0%	B
成果の指標	—		—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	冊子の改訂に併せて、ホームページの新設、講演会の開催など、一体的な情報発信ができた。講演会の参加人員は目標値に達しなかったが、西南学院大学と共催することで、早良区サザエさん通りのPR、活性化や地域との連携が進んだ。					

校区安全安心まちづくり推進事業			所管課	早良区総務部総務課		26年度事業費	2,457	千円
						27年度事業費	1,874	千円
対象	地域住民	目的	地域住民の自治意識，安全活動をさらに活性化させ，地域・警察・行政が一体となって犯罪を未然に防止する総合的な活動にまで展開させていくことで，安全で安心して快適に暮らせるまちを目指す。					
前年度実施内容	①毎年2校区を対象に，住民自らが生活している地域について，ワークショップ形式により地域全体の危険個所等の点検を行い，まちづくり基本計画の策定や，安全安心マップの作成等ソフト・ハード面の整備について支援を行った。 平成25年度は飯倉中央校区，小田部校区について実施。 ②各校区で行っている自主防犯活動において，必要となる物資の支援を行い地域の防犯力向上を図った。 ③日頃の散歩や買い物のついでなど気軽に防犯活動に参加できる「ぴかりんパトロール隊」について，新規隊員の募集やパトロール用品の支援を行い，また隊員を対象とした研修会を実施した。							
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	まちづくり基本計画を策定した校区数		15（累計）	15（累計）	100%	A		
成果の指標	－		－	－	－			
事業の進捗状況に関する補足	－							
室見川水系一斉清掃			所管課	早良区地域整備部生活環境課		26年度事業費	878	千円
						27年度事業費	835	千円
対象	早良区民	目的	早良区民と共働で室見川水系を上流から下流まで一斉に清掃することで，室見川水系の自然的環境を守るとともに環境意識の向上を図る。					
前年度実施内容	①福岡県福岡県土整備事務所へ除草依頼（H26.7） ②第1回実行委員会（H26.9） ③各校区自治協議会等へ参加要請（H26.10） ④一斉清掃実施（H26.11） ⑤第2回実行委員会（H26.12）							
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	清掃参加者		5,000	4,292	86%	B		
成果の指標	ごみ回収量（4tトラック台数）		10	16	160%			
事業の進捗状況に関する補足	26年度は西区より初めて参加があった（2校区174人・・・内数）							
さわら魅力アップ事業（さわらの秋）			所管課	早良区総務部企画課		26年度事業費	4,647	千円
						27年度事業費	4,300	千円
対象	区民・市民及び近隣市町村の住民	目的	区民が地域に愛着や誇りを持ち，より一層の関心を深めて区内を回遊し，かつ，区外からの観光客を迎え，地域経済の活性化を図る。					
前年度実施内容	「さわらの秋」を統一テーマとして，早良区の自然・名所・歴史・特産品，民間や区の催事，区内の店舗や事業所等を紹介し，区内への集客を促進する区民・市民向けのセールス・プロモーションを実施する。 26年度は，見所・イベント等63件以上，協賛店舗50店を紹介するとともに，回遊を促すため，スタンプラリー実施。また，新企画として「さわらの秋体験イベント」を9事業（述べ12回）開催。 ○パンフレット（15,000部）発行 ・秋の収穫祭特集（2ページ）を新設。 ・さわらの秋スタンプラリーの景品交換所を1箇所から2箇所に増やした。 ○主催イベント ・協賛店とコラボして「物づくり体験イベント」などを新たに実施。 ・モニターツアーの回数を1回から2回に増やした。							
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	協賛店		50	50	100%	B		
成果の指標	事業満足度（アンケート集計）（%）		95.0	集計中	－			
事業の進捗状況に関する補足	－							
さわら魅力アップ事業（早良区の魅力情報発信）			所管課	早良区総務部企画課		26年度事業費	2,224	千円
						27年度事業費	2,903	千円
対象	区民 市民及び福岡市近郊の住民	目的	区政情報の発信により信頼される区役所となる。地域の見どころや地域活動の情報発信により，多くの住民が地域に愛着を持ち，活動に参加する。区近郊から多くの来街者が訪れる。					
前年度実施内容	①区の魅力を紹介するHP「早良区彩”食”健”美”の玉手箱」内に新規動画・見どころスポットの追加や背景を季節に応じたデザインに変更し，内容を充実させた。 ②FB「早良区情報玉手箱」では，閲覧者に継続的に見てもらうため，投稿が途切れないように記事を掲載。FB内の情報が偏らないように，各課に記事を掲載してもらうよう呼び掛けた。 ③区役所1階の展示スペース「さわらの四季コーナー」では，区内の自然や魅力を紹介した写真を展示。また，区の事業紹介や啓発週間の告知などを行った。 ④地域の見どころや催しを区民が紹介する「よかところ情報探検隊」の取材記事を区HP及びFBに随時掲載した。							
		指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	区フェイスブックに掲載する所属の数		15	16	107%	B		
成果の指標	区フェイスブックへの「いいね!」の数		1,400	1,237	88%			
事業の進捗状況に関する補足	－							

さわら魅力アップ事業（「サザエさん通り」を生かしたまちづくり・「サザエさん通り」回遊性向上事業）			所管課	早良区総務部企画課・地域整備部地域整備課	26年度事業費	19,442 千円	
					27年度事業費	5,814 千円	
対象	早良区民（特に「サザエさん通り」周辺住民） 早良区「サザエさん通り」を訪れるひと	目的	「サザエさん通り」を生かしたまちづくりが進み、長谷川町子氏の足跡を後世に伝えるとともに、「サザエさん通り」の認知度が向上する。また、「サザエさん通り」周辺地域の回遊性が高まり活性化した状態。				
前年度実施内容	・「サザエさん通り」ウィークの開催 ・「サザエさん通り」を生かしたまちづくり推進協議会の開催 3回 ・「サザエさん」「マスオさん」の着ぐるみを活用した「サザエさん通り」のPR ・「サザエさん通り」バナーの維持管理 ・「サザエさん通り」の総合案内サイン1か所、誘導案内サイン6か所設置。 ・「サザエさん通り」に関連するハード整備の基本的な方向性及び改良案の検討。						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	サザエさん通りを生かした地域等との共働事業数			7	5	71%	B
成果の指標	—			—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—						
さわら魅力アップ事業（「サザエさん通り」ハッピーウェディング事業）			所管課	早良区総務部企画課	26年度事業費	169 千円	
					27年度事業費	230 千円	
対象	婚姻届を提出するひと 区役所来庁者	目的	窓口サービスへの満足度向上、「サザエさん通り」の認知度向上を図る。				
前年度実施内容	・手元に残らない婚姻届の写しが入る「サザエさん通り」ポケットファイルを作成し、婚姻届受理時に配布						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	婚姻届件数			1,200	1,119	93%	B
成果の指標	—			—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—						
さわら魅力アップ事業（野河内溪谷魅力づくり）			所管課	早良区総務部企画課	26年度事業費	398 千円	
					27年度事業費	834 千円	
対象	区民、市民	目的	野河内溪谷へのの来訪者数増加				
前年度実施内容	来訪し易い環境づくりに向け、自家用車利用による来訪者の利便性向上のため土地借上げにより野河内溪谷駐車場を設置。						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—			—	—	—	A
成果の指標	—			—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—						
早良みなみ元気応援事業			所管課	早良区総務部企画課	26年度事業費	1,186 千円	
					27年度事業費	1,236 千円	
対象	早良区南部地域に住んでいるひと 早良区南部地域を訪れるひと	目的	早良区南部地域の課題を解決するために、これからの南部地域のあり方について考え、今後の地域活動へ繋がるものとする。				
前年度実施内容	「早良みなみ塾」の活動を支援。 ①早良みなみ塾全体会フォーラムの開催 1回 （20人参加） ②早良みなみ塾各分科会の開催 35回（述べ169人参加） ③早良みなみ塾イベント等の実施 体験農園、脊振山系魅力発信、野河内溪谷保全活動、早良南部の歴史・文化冊子整理、早良みなみマルシェ、早良ZINE発行 早良南部5校区との意見交換会を行い、「早良みなみ塾」についての今後のあり方について検討。						
	指標内容			26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	早良区南部地域活性化に関する地域との共働事業数			8	8	100%	B
成果の指標	早良みなみ塾フェイスブックへの「いいね」の数			200	196	98%	
事業の進捗状況に関する補足	—						

区のまちづくり目標総括シート

西区	自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区 ～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～
取組みの 方向性	○自然を生かし、環境にやさしいまち ○にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち ○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち ○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

1 区のまちづくりの目標に関する現状や課題

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数
H12	西区	26,932	(16.2%)	115,406	(69.3%)	24,275	(14.6%)	166,676
H17		28,347	(15.9%)	120,391	(67.3%)	30,026	(16.8%)	179,387
H22		30,181	(15.6%)	126,224	(65.4%)	36,540	(18.9%)	193,280
H26		31,353	(15.5%)	128,096	(63.3%)	43,029	(21.3%)	202,804
	全市	199,730	(13.3%)	999,728	(66.7%)	300,055	(20.0%)	1,519,349
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		
H12	西区	3,413	(5.5%)	16,385	(26.6%)	61,579	*国勢調査（H26人口は10.1時点の推計人口） *総数には年齢不詳を含む。 年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。	
H17		4,375	(6.4%)	19,213	(28.1%)	68,254		
H22		5,723	(7.3%)	25,157	(32.3%)	77,880		
		59,995	(8.5%)	337,103	(47.7%)	706,428		
	全市							

●自然を生かし、環境にやさしいまち

- ・豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。
- ・地域での環境活動の活発化には、活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが、その人材が不足。

●にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

- ・校区や地域単位での夏祭りや地域カフェ等の開催、また地域デビュー事業等によって、地域の活性化に対する取り組みが増えているものの、市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著な地域もある。

●大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

- ・地域と九州大学が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、さらに大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かすことが必要。
*H26nの九州大学と地域との連携・交流事業数：37事業

●子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

- ・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区・地域によって自主的な避難訓練または避難所運営訓練等が実施されつつあるが、その組織が災害時に実際に対応できる体制となるまでには、さらなる取り組みが必要。

2 目標実現に向けた今後の取組みの方向性

●自然を生かし、環境にやさしいまち

- ・人材育成講座による人材の発掘・育成を図るとともに、活動のノウハウ、情報提供等の支援などにより、自立した環境活動を促進。

●にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

- ・市街化調整区域のまちづくり活動支援や関係局と連携した協議を継続的に行うとともに、地域だけで実現・実行が困難なまちづくりの取組みについては、地域主導を維持しつつ、支援・助言を実施。

●大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

- ・「九大サークル一覧」をさらに充実させ、公民館に提供し、大学生と地域との自主的な交流事業開催を促進。
- ・九州大学及び地域の魅力づくりや活性化に取り組む学生団体と地域とをつなぎ、地域の特性にあったまちづくりに取り組む。

●子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

- ・地域防災専門員による校区単位の自主的な避難所運営訓練の支援を全校区に広げるとともに、研修会の開催による住民の防災意識向上、避難訓練の実施等による実践能力向上を図る。
- ・地域・警察・行政が連携した防犯組織において、情報共有、連携強化に努め、安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組む。

事業一覧

【西区】自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

地域の自治力強化に向けた校区支援事業		所管課	西区総務部地域支援課		26年度事業費	1,164	千円
					27年度事業費	2,007	千円
対象	・ 校区自治協議会 ・ 自治会・町内会	目的	自治会・町内会への加入率が上がるとともに、多くの住民が地域活動へ参加し、市との共働のパートナーとしてのコミュニティ自治を確立する。				
前年度実施内容	・ 自治会・町内会長等役員研修の実施 ・ 自治協議会実務研修の実施 ・ 自治会・町内会加入促進の支援 ・ 自治会・町内会長表彰制度の創設 ・ 伊都土地区画整理地内におけるコミュニティ団体育成支援						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	研修会等延べ開催回数		4	4	100%	B	
成果の指標	自治会・町内会の加入状況（実績はH26アンケート結果）（％）		95.0	87.0	92%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
西区市街化調整区域のまちづくり活動支援事業		所管課	西区総務部総務課		26年度事業費	844	千円
					27年度事業費	2,047	千円
対象	・ 市街化調整区域及びその周辺地域	目的	・ 市街化調整区域及びその周辺地域の主体的なまちづくり活動実施 ・ 地域公共交通機関の脆弱な地域における交通機関の存続				
前年度実施内容	・ 「西部6校区まちづくりプラン」の実行支援 ・ 地域公共交通機関の確保に関する検討 ・ 福岡マラソン2014の地域応援に関する支援 ・ JR九州ウォーキング（JR今宿駅）の開催協力						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	市街化調整区域のまちづくり活動の支援数		1	1	100%	A	
成果の指標	地域の主体的なまちづくり活動実施		1	1	100%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
大学と地域の連携・交流促進事業		所管課	西区総務部総務課		26年度事業費	1,649	千円
					27年度事業費	1,951	千円
対象	・ 西区住民 ・ 九州大学学生及び教職員	目的	住民、九州大学学生及び教職員の連携・交流が促進され、地域のまちづくりに九州大学が貢献する。				
前年度実施内容	・ 九大生と地域住民による「伊都祭」の開催支援（負担金） ・ さいとびあを活用したサークル発表会等の開催支援 ・ 子ども向けの科学実験事業、農水畜産体験学習事業、航空・宇宙体験学習事業の実施 ・ 歴史公開講座の実施 ・ 大学と地域との連絡調整 ・ 「活かそう！九大便利帳」の更新						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	大学と地域との連携・交流事業数（全て）		38	37	97%	B	
成果の指標	大学と地域との連携・交流事業数（地域直接のみ）		20	19	95%		
事業の進捗状況に関する補足	—						
西区防犯対策事業（地域防犯力の強化推進事業）		所管課	西区総務部総務課		26年度事業費	1,308	千円
					27年度事業費	2,439	千円
対象	西区の地域住民	目的	地域住民自らが主体となって取り組む各種防犯活動を支援することで、市民の防犯意識の向上と街頭犯罪の抑止を進め、犯罪のない街を実現する。				
前年度実施内容	・ 安全安心マップの改訂支援（7校区実施、改訂内容は地域で決定） ・ 地域防犯パトロールカーの車検支援事業（6校区実施） ・ 西区自主防犯パトロール立ち上げ及び拡充支援事業（4団体実施） ・ 防犯活動情報交換会の実施						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	安全安心マップの改訂支援実施校区数		7	7	100%	A	
成果の指標	犯罪認知件数（暦年）		2231	1,997	112%		
事業の進捗状況に関する補足	—						

地域自主防災力及び防災・危機管理体制の充実・強化		所管課	西区総務部総務課		26年度事業費	3,516	千円
					27年度事業費	4,982	千円
対象	・各校区並びに西区の防犯体制	目 防災計画の見直しや避難訓練、避難所運営訓練(HUG)等を支援し、市民の防災意識の向上を図ること 的により、自助・共助による防災力を強化し、災害に強いまちづくりを推進する。					
前年度実施内容	・ 自主防災訓練等の指導・支援（20件実施） ・ 区総合防災訓練の実施 ・ 情報伝達訓練の実施 ・ 災害危険箇所の点検指導（安全安心マップ改訂時に反映） ・ 自主防災組織支援物資支給事業の実施						
	指標内容		26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	自主防災組織活動支援物資支給申請校区数		20	18	90%	C	
成果の指標	地域での防災訓練等の実施数		33	20	61%		
事業の進捗状況に関する補足	26年度は校区役員改選期にあつたために校区が行うべき各事業開催の段取りに時間を割かれ、防災訓練実施の時間的余裕を失った校区が多かった。						